

奥出雲町肉用子牛共進会を開催 和牛改良の成果

平成30年度第1回奥出雲町肉用子牛共進会が、6月7日に仁多中央家畜集会所において開催されました。

この共進会は、肉用牛の改良増殖と畜産経営の発展を目的に開催されており、町内9地区および奥出雲町農業公社から選ばれた38頭の肉用子牛が出品され、審査員によって個体審査、比較審査が行われました。

会場には町内の畜産関係者が訪れ、審査の様子を見守っていました。



▲特選賞首席の「あき」号

<審査結果>

順位	各号	出品者(地区)
特選賞 首席	あき	福田 一三(八川)
特選賞 2席	みつはな4	藤原トミ子(横田)
特選賞 3席	しらゆり	内田 勇(三沢)
特選賞 4席	まりひめ	石原 昭(阿井)
特選賞 5席	もみじ	森桜 俊治(三成)
団体優勝	三沢支部	

奥出雲町消防団夏期総合訓練 並びに第10回奥出雲町消防操法大会が開催



▲表彰の様子

6月24日、横田公園多目的広場で、夏期総合訓練と操法大会が行われ、各地区の消防団員が参加しました。

夏期総合訓練では、各分団が指定された部隊訓練を行いました。指揮者の指示に従って行進しながら部隊の隊形を変更したり、全分団員が指示された隊形に素早く整列したりと、規律ある動作を披露しました。

操法大会では、ポンプ車の部に8チーム、小型ポンプ車の部に15チームが出場し、これまでの訓練の成果を競いました。

第10回消防操法大会成績

小型ポンプの部

優勝	三沢分団第1部	77.0点
準優勝	布勢分団第4部	76.5点
第3位	亀嵩分団第2部	76.5点

ポンプ車の部

優勝	横田分団第2部	154.5点
準優勝	阿井分団第2部	153.5点
第3位	布勢分団第1部	147.5点

総合の部

優勝	横田分団	149.0点
----	------	--------

※小型ポンプの部は100点満点、ポンプ車の部は200点満点、総合の部はポンプ車の部の得点を1/2にして足したものです。

米国ストリームウッド高校生が 奥出雲町でホームステイ



▲茶道体験

本町は、14年前からアメリカ合衆国シカゴのストリームウッド高校で日本語を学ぶ生徒との交流事業を続けてきました。

今年は21人の生徒が訪れ、11組のホストファミリーの協力のもと、6月10日から7泊8日のホームステイが行われました。

滞在期間中は、町内小中学校、高校で児童・生徒との交流や日本の授業に参加したほか、みざわの館で甲冑・着物の試着、櫻井家住宅で茶道体験、妙厳寺での座禅体験などを行いました。

最終日には、ホストファミリーとのお別れ会が開催され、学校や家庭で過ごした時間を振り返り、別れを惜しみつつも絆を深めていました。



スパイスを使ったインド料理について学ぶ参加者

内閣官房ホストタウンアクション

インドの 魅力

～インドの食文化で
心も体も健康に～

インドの食文化などを学ぶイベント「インドの魅力」が、6月23日、旧高田小学校ランチルームで開催されました。東京五輪ホッケー競技でインドの事前キャンプ誘致を目指す奥出雲町国内キャンプ招致委員会が主催。町内外から40人が参加し、インドの文化やインド料理の調理方法などを学び、異文化理解を深めました。

講師を務めたインド・スリランカスパイス料理研究家の香取薫さんは、インドの住環境の違い、民族の多様性、スパイスの効果などを話されました。インドでは季節、体調、素材の味に合わせスパイスを調整しながら料理を作る文化があると、実際に参加者の前でバスマティライス、ライスの炊き方、レンズ豆を使ったインドのみそ汁といわれるダールなどの調理を披露されました。

参加者はスパイスの扱い方をメモにとりながら熱心に学びました。



▲ダール(上中)、
ラーエター(上右)などを試食

吾妻山の山開き 登山者の安全を祈願



▲安全祈願の様子

吾妻山の山開きが、6月3日に庄原市の休暇村吾妻ロッジで、6月9日には吾妻山友の会主催で本町の吾妻山第二駐車場を会場に行われ、奥原副町長をはじめ地元関係者、庄原市からの来賓など40人が出席し、登山者の安全を祈願しました。

吾妻山は本町と広島県庄原市の県境に位置し、春から秋にかけて様々な野の花が咲き誇ります。また、山頂からは日本海、大山、三瓶山が眺められ、毎年多くの登山者が訪れる中国地方を代表する山の一つです。

登山道や大膳原キャンプ場周辺の整備は、吾妻山友の会をはじめとする地域のボランティア活動によって支えられ、夏には町内小学校の教育キャンプが行われています。

絲原氏庭園が 国登録記念物へ登録されることが決定



▲絲原氏庭園

6月15日に開かれた国の文化審議会の答申により、大谷の絲原氏庭園が国の登録記念物に登録されることが決まりました。

絲原氏庭園は、たたら製鉄の鉄師頭取も務めた絲原家によって造られ、江戸時代に起源をもち、大正末期に現在の形となったと考えられる庭園です。

二つの短冊石を少しずらして平行に並べ、その近くに飛石として白石を設置する石の配置や、庭木としてキャラボクが多数植栽されるなど、出雲地方独特の意匠を伝えており、このことが造園文化の発展に寄与した意義深い事例として評価されました。

庭園に隣接し国の登録有形文化財に登録されている絲原家住宅とともに、たたら製鉄で栄えた奥出雲の歴史を偲ばせる貴重な文化財です。